

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年4月に全国学力・学習状況調査が実施されました。市内の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒がこの調査を実施しましたので、この結果を公表いたします。

白井市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 白井市における調査の実施状況

(1) 調査期日

令和4年4月19日（火）

(2) 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

(3) 調査内容

小学校第6学年

国語

算数

理科

質問紙調査（学習意欲・学習環境・生活面等に関する調査）

中学校第3学年

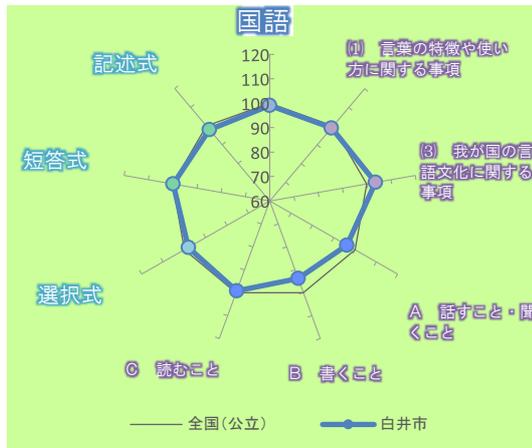
国語

数学

理科

質問紙調査（学習意欲・学習環境・生活面等に関する調査）

<小学校国語>



国語

全体の正答率は、全国の正答率とほぼ同じである。「我が国の言語文化に関する問題」においては、全国の正答率を上回っている。漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができたことを示している。

言葉の特徴や使い方に 関する事項

- ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- ◇話し言葉と書き言葉の違いを理解することができる。
- ◆言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題がある。

話すこと 聞くこと

- ◇必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。
- ◆互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。

書くこと

- ◇文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。
- ◆文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。

読むこと

- ◇登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。
- ◇人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。
- ◆登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることに課題がある。
- ◆表現の効果を考えることに課題がある。

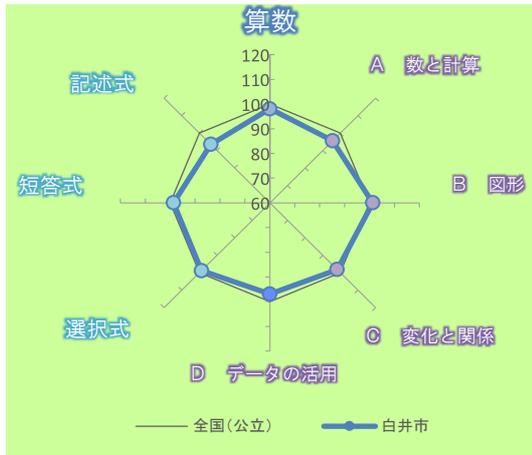


授業改善のポイント

- ◇→概ね身についている。
- ◆→課題がある。

- 話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定する。
- 話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることができるよう指導していく。
- 物語の一部分だけを取り上げて登場人物の相互関係について考えるのではなく、物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるよう指導する。
- 書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、整えることができるよう指導する。

<小学校算数>



算数
 全体の正答率は、全国の正答率とほぼ同じである。特に、図形の領域において、全国平均を上回る正答率で、無回答率も全国平均に比べて低い数値を示しており、図形については自信をもって回答していることが分かる。

数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ◇被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる。 ◇示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。 ◆加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述することに課題がある。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ◇図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 ◇図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 ◇示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ◇百分率で示された割合を分数で表すことができる。 ◆百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることを理解する必要がある。 ◆示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する必要がある。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ◇表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。 ◆分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することを理解する必要がある。 ◆目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題がある。

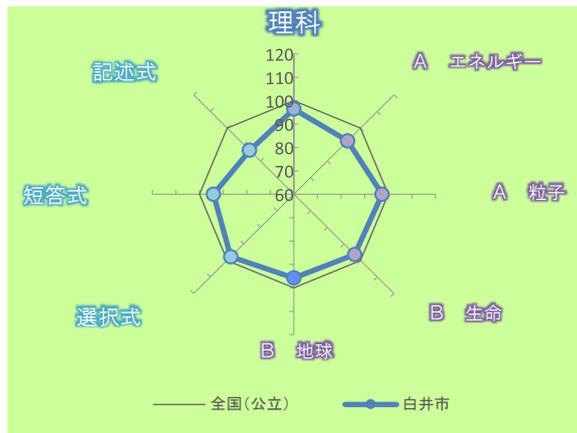


授業改善のポイント

- ◇→概ね身につけている。
- ◆→課題がある。

- 日常生活の問題を解決するために、問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に式で表すとともに、式を読み取ったり、正しく計算したりすることができるように指導する。
- 割合と基準量から、比較量を求めることができるように指導する。
- 日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるように指導する。
- 分類整理されたデータについて、目的に応じて筋道を立てて考察できるように指導する。

<小学校理科>



理科
 全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。分野別には、「生命」を柱とする領域において、比較的高い正答率を示している。

エネルギー

◇問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することができる。
 ◆実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。

粒子

◇メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。
 ◇自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。
 ◆メスシリンダーという器具を理解する必要がある。

生命

◇問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。
 ◇提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる。
 ◆自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。

地球

◇観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。
 ◇水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。
 ◆予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことに課題がある。

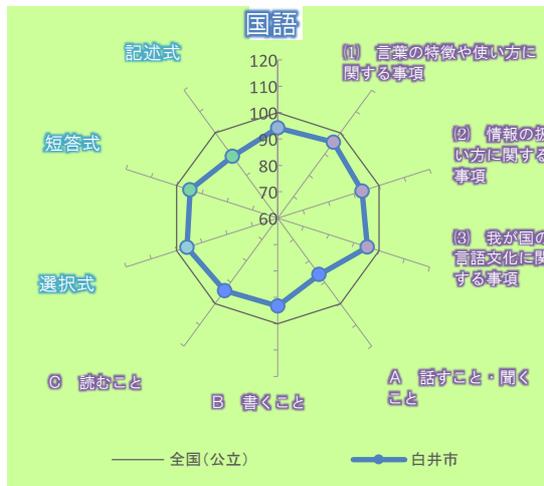


授業改善のポイント

◇→概ね身につけている。
 ◆→課題がある。

- 主体的な問題解決を通して、知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるように指導する。
- 使用する機会が少ない器具について操作を体験する場面を一人一人に設け、目的に応じた器具を選択することの重要性について十分実感することができるように指導する。
- 結果や自他の考えを基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだすことができるように指導する。
- 問題を解決するまでの道筋を構想し、解決の方法を発想することができるように指導する。

<中学校国語>



国語

全体の正答率は、全国の正答率を下回っている。領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」における平均正答率が比較的高い割合を示している。

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ◇助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができる。
- ◇文脈に即して正しく書くことができる。
- ◇事象や行為、心情を表す語句について理解することができる。
- ◆自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題がある。

話すこと・聞くこと

- ◇論理の展開などに注意して聞くことができる。
- ◆自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題がある。
- ◆聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することに課題がある。

書くこと

- ◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。

読むこと

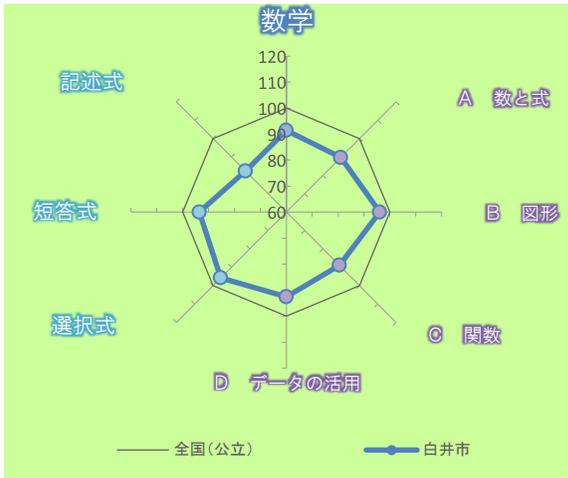
- ◇場面と場面・場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。
- ◆場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

授業改善のポイント

- ◇→概ね身につけている。
- ◆→課題がある。

- アクセントやイントネーションなどの音声的な特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確かめたりする学習活動を取り入れる。
- 複数のスピーチを比較し、それぞれの話し方の工夫について確かめるなどの学習活動を取り入れ、分かりやすく伝えるための具体的な工夫について考えるように指導する。
- 資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合うなどの学習活動を取り入れる。
- 心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かい違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりする学習活動を取り入れる。

<中学校数学>



数学

正答率は、全国の正答率をやや下回っている。領域別に見ると、図形の問題において、比較的高い正答率を示している。

数と式

- ◇簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
- ◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
- ◆結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

図形

- ◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
- ◇反例の意味を理解している。
- ◆筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

関数

- ◇一次関数の変化の割合の意味を理解している。
- ◆与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題がある。
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

データの活用

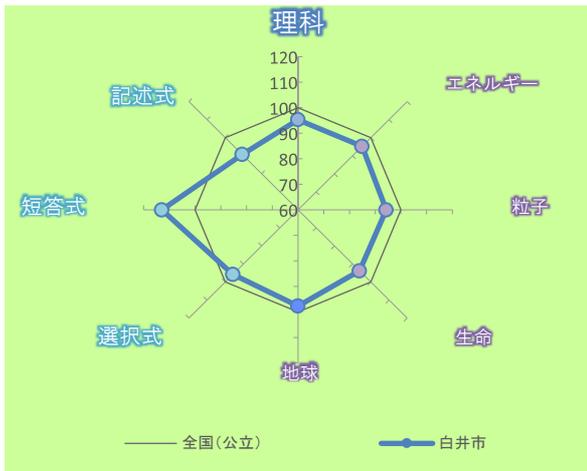
- ◇多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。
- ◆データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ◆箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに課題がある。

授業改善のポイント

- ◇→概ね身につけている。
- ◆→課題がある。

- 数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察できるように指導する。
- 結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れる。
- 様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、例えば、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたのかといった「用い方」について考え、説明できるように指導する。
- データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導する。

< 中学校理科 >



理科

正答率は、全国の正答率をやや下回っている。問題形式としては、短文式の問題において全国の正答率を上回る割合を示している。

エネルギー

◇モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる。
◆力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することに課題がある。

粒子

◇化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができる。
◆液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用することに課題がある。

生命

◇節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できる。
◆未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、文類の観点や基準を基に分析して解釈することに課題がある。

地球

◇観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明することができる。
◆地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈することに課題がある。

授業改善のポイント

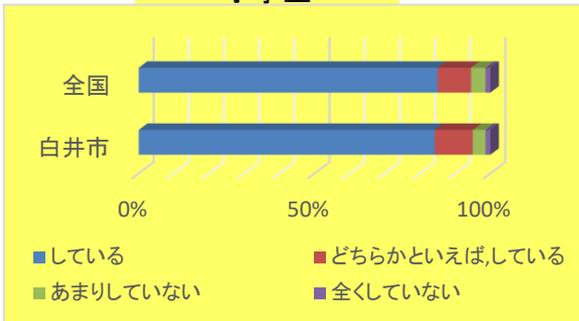
- ◇→概ね身につけている。
- ◆→課題がある。

- 物体に力を働かせる実験を行い、1つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する場面を設定し指導する。
- 状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けて探求する学習場面を繰り返し設定し、指導する。
- いろいろな動物の外部形態を観察し、共通点と相違点を基に観点や基準を見いだして分類する場面を設定し、指導にあたる。
- 地層の広がり方を理解する上で、露頭のスケッチの位置関係をルートマップから把握して空間として認識し、分析して解釈できるよう指導する。

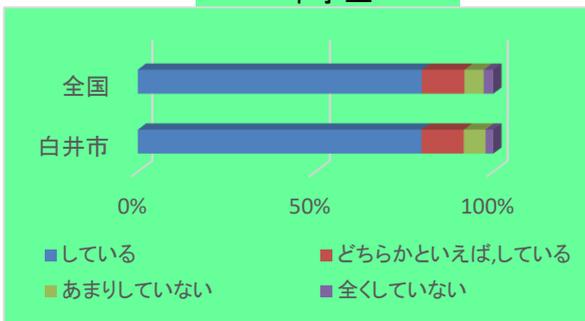
1 生活習慣について

朝食を毎日食べていますか。

小学生



中学生



毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

小学生



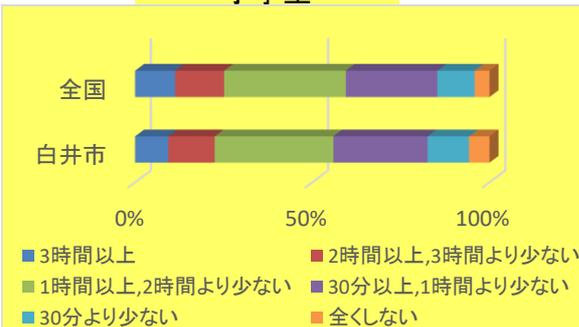
中学生



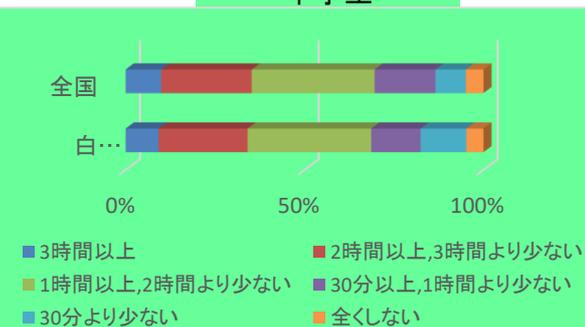
2 家庭学習について

学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾や家庭教師に教わっている時間を含む)

小学生

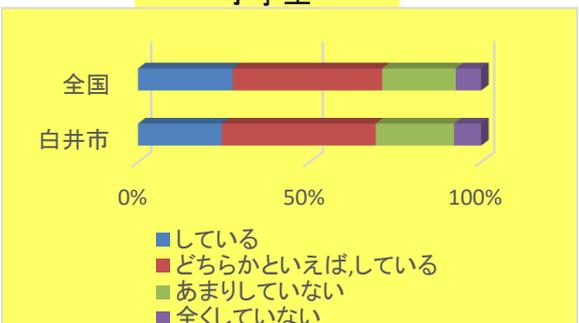


中学生



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)

小学生



中学生



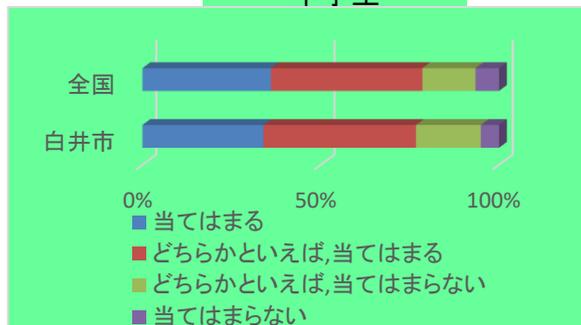
3 意欲・自己肯定感について

自分には、よいところがあると思いますか。

小学生



中学生

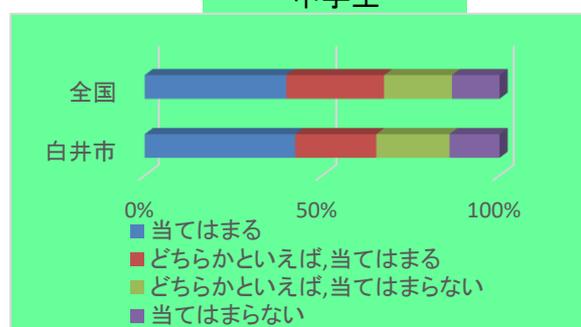


将来の夢や目標を持っていますか。

小学生



中学生



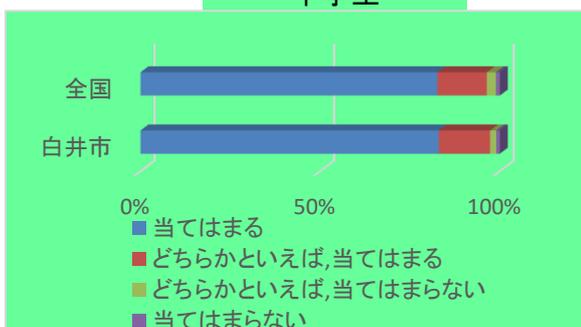
4 人間関係について

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

小学生

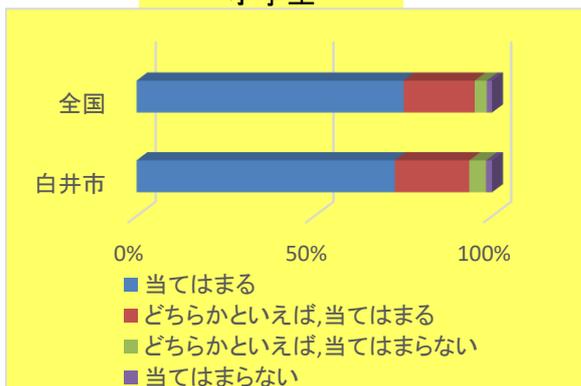


中学生

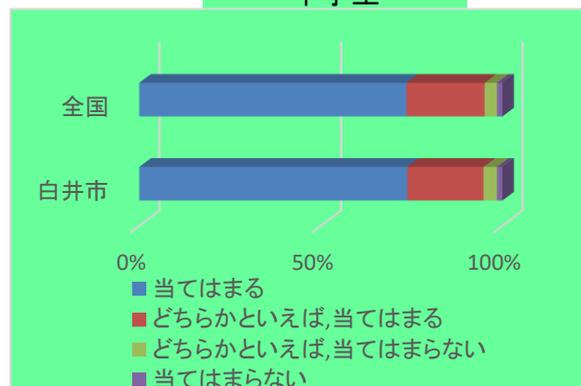


人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

小学生



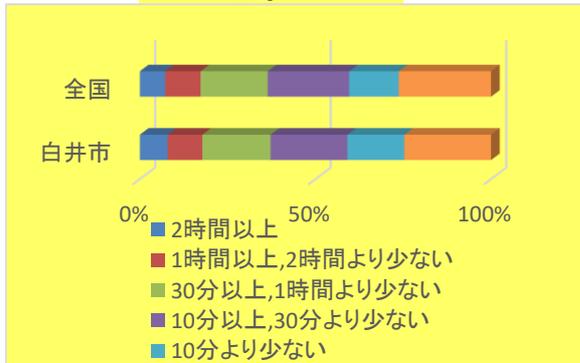
中学生



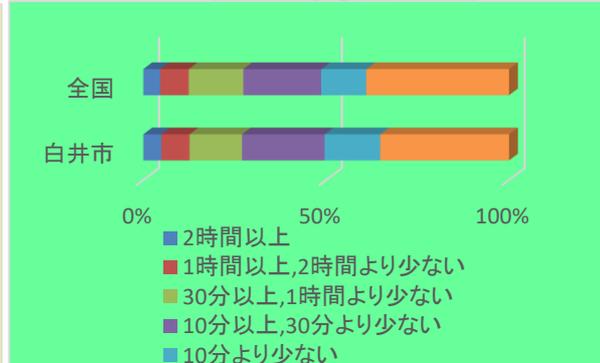
5 読書について

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、読書を行いますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

小学生



中学生

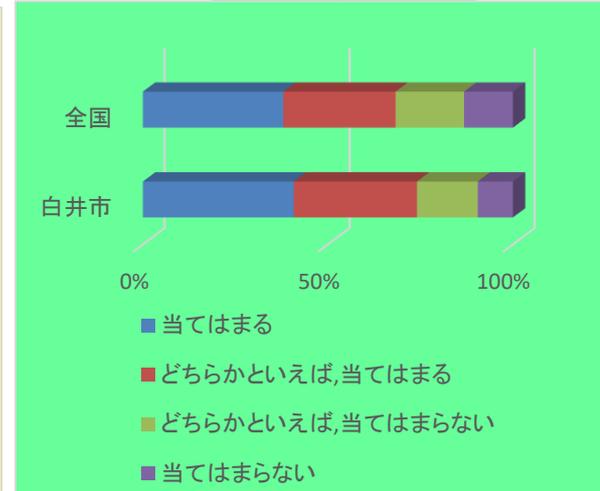


読書は好きですか

小学生



中学生



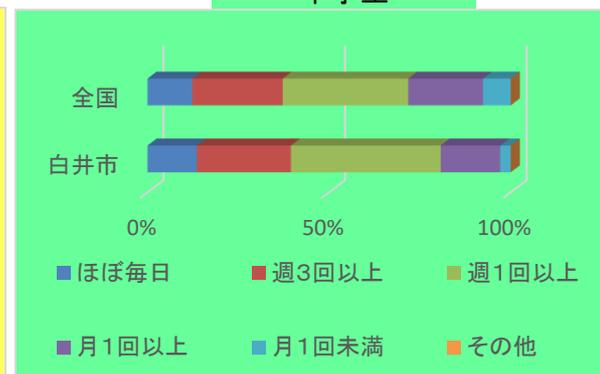
6 ICTについて

学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）

小学生



中学生



【白井の子どもたちの様子】

○朝食は、児童で84%、生徒は80%が毎日とっている。一方、就寝時刻については、決まった時刻に寝ている児童は、38%、生徒が35%であった。朝食をしっかりとることや就寝時刻が安定していることは、児童生徒の健康面に影響を及ぼす要素の一つである。今後も、自身の健康に意識するための健康教育や食育を家庭と連携して推進することが必要である。

○中学校では、家庭学習の時間を全国平均とほぼ同じくらいとっている。また、家庭で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童生徒の割合が、全国平均よりやや下回っている。今後も家庭と連携しながら、家庭学習の大切さを子どもたちだけでなく、保護者にも伝えていく。

○小学校においては、将来の夢や目標を持っている児童の割合が全国平均とほぼ同じ割合を示している。中学校においては、将来の夢や目標についての肯定的な回答が全国平均を上回っている。今後もキャリア教育を充実させ、明るい未来を描ける児童生徒の育成に努めたい。

○白井市の児童生徒の76%が自分を肯定的にとらえている。日本人は自己肯定感が低いと言われている。コロナ禍の学校生活という窮屈な生活の中でも、一人一人の子どもの活躍する場を確保し、自己肯定感・自己有用感を高めていくことを大切にしたい。

○白井市では、「自ら本に手を伸ばす子どもの育成」を目指し、各学校に読書活動推進補助教員を配置している。白井市の子どもたちの「読書が好きか」という質問に対する回答は、全国平均より大きく肯定的な割合を示している。これは、読書活動推進補助教員による、児童生徒にとって興味深い図書室のレイアウトや整備、授業での関わりが大きく関係していると考えられる。今後も各教科等と関連づけながら、読書活動をさらに推進していくことが必要である。

○1人1台端末が配備され、小学校・中学校ともに、80%を越える割合で週1回以上の活用があることが読み取れる。授業や調べもの、発表する場面や課題作成等、様々な場面でのさらなる活用が期待される。